

地域アクションプラン総括シート

(安芸地域)

「数値目標等に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施
(客観的に評価できない定性的な目標については、「-」としている)

区分	評価基準	
A+	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した（または達成する見込みがある）もの
A		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%以上100%未満
A-		<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%未満
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの	

【地域アクションプラン 総括シート】

《安芸地域》

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進</p> <p>《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》</p> <p>主産地である安芸市において、ナス産地としてのまとまりの再構築に取り組む。また、消費地から要望の高い品種である「土佐鷹」の栽培拡大を全域に推進していく。</p>	<p><系統率向上への取組> (H21~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点巡回指導の実施 ・営農相談で技術情報の提供 ・地区会、勉強会の開催 <p><土佐鷹の推進> (H21~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐鷹普及推進協議会や生産者大会の開催 ・営農指導員等の研修会の実施 ・土佐鷹勧誘用のポスター・チラシ作成・配布 ・土佐鷹栽培こよみ作成・配布 	<p><系統率向上への取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統外生産者を含めた地区会、環境保全型農業や環境制御技術の最新情報などの勉強会の開催、また、学び教えあう場の活用などにより、まとまりの意識が徐々に醸成されている。 ・JA土佐あき新施設園芸システム勉強会が発足 (H25) ・研究会ナス部会への参加者増により活動の活性化 (安芸集出荷場) が図られている。 <p>参加者数：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21年度 126人 H22年度 174人 ・H23年度 228人 H24年度 325人 ・H25年度 393人 H26年度 370人 <p>⇒ 安芸市のナス系統率が向上した H21 : 52% → H25 : 55%</p> <p><土佐鷹の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸場の新規加入者数 ：合計28名 (H22~27園芸年度) ・JA土佐あき全体の消費拡大連絡協議会が発足 (H25)

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
<p>安芸市の系統 出荷率 60% (H21 : 52%)</p> <p>土佐鷹の 作付面積 80ha (H23 : 29ha)</p>	<p>(H27年度末見込) —</p> <p>(直近の実績) 55% (H25年度末)</p> <p>(H27年度末見込) 19.4ha</p> <p>(直近の実績) 23.8ha (H26年度末)</p>	<p>A—</p> <p>B</p>	<p>系統外生産者を含めた地区会への参加者 (H26年度125人)、研究会ナス部会への参 加者(安芸集出荷場)増(H21年度126人→ 26年度370人)による活動の活性化などによ り、ナスの系統出荷率は向上したが、土佐鷹の 作付面積は減少した。また、増収効果が確認さ れた環境制御技術を普及するため、『環境制御 技術導入加速化事業』等を利用することで、炭 酸ガス発生装置等の導入が進んだ(11.8ha、 H27.3月現在)。</p> <p><課題> 地区会や研究会でタイムリーな情報提供や指 導行ってきたが、系統外生産者の参加率が徐々 に減ってきている。 土佐鷹は、地区別説明会や個別巡回による誘 導等を行ったが、燃油価格の高騰やナスの販売 コード集約により、栽培面積は減少している。</p>	<p>魅力ある部会活動と参加率向上 のための体制づくりをJAと協議 し、役割分担を行いながら呼びか けを行う。 県園芸連としては、「土佐鷹」 や「龍馬」といった個別銘柄で販 売するのではなく、「高知ナス」 として販売を行うことに決定し た。今後、「土佐鷹」というブラ ンドの取り扱いをどうするのか、 成長戦略と整合性を取りながら検 討する。</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>2 ユズを中心とした中山間振興</p> <p>《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。</p>	<p>(JA土佐あき)</p> <p><新植、改植の推進への取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県選抜系統を活用した母樹園を設置 (H22~) ・講習会等での定期的な栽培指導及び改植事業の説明 (H22~) <p><将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村ゆず振興協議会で作業受託組織の設立等を検討 (H24~) ・園地流動化に向けた園地調査を実施 (H26~) <p><ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・果汁の販売対策として計画的な施設整備 果汁殺菌設備 (H24) 産業振興推進総合支援事業費補助金 13,966千円 ・JA内に販売対策チームの設立 (H24) ・EU向けに青果輸出の開始 (H24~) ・消費者との交流イベント(収穫祭、料理コンテスト)実施 (H24~H26) 産業振興アドバイザーの招へい 3回 <p>(JA馬路村)</p> <p><将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有、課題・問題点の把握 (H24~) <p><ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売拡大に向けた新商品開発 (H24~) ・消費者との交流イベント(ゆずはじまる祭)実施 (H18~) ・アルミ缶対応ドリンク充填ラインの導入 (H26) 産業振興推進総合支援事業費補助金 32,833千円 	<p><新植、改植の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実の品質アップに向け、関係機関が連携して指導しており、生産者も適期防除等に取り組んでいる。また、改植事業も周知が進んでいる。 ⇒青果出荷受入 297t (H22) →449t (H26) <p><将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区(宗ノ上地区)のほ場台帳を作成 (H26) <p><ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓></p> <p>(JA土佐あき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果汁販売の取り組み強化により、安定的な販売ができている。 ・継続的にEU向け青果輸出ができおり、海外でのユズの認知度向上が図られている (H24~)。 ・EUに向けた青果輸出 H24: 3t、H25: 3t、H26: 3t ・全搾汁工場で県版HACCPを取得 (H26) <p>(JA馬路村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 H24: シャーベット2種、ボン酢1種 H25: 化粧品3種、ボン酢1種 H26: 化粧品2種、調味料3種 ・加工品の販売実績が増加している。 ・搾汁施設で県版HACCPを取得 (H27)

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
青果出荷受入量400t (H22: 297t) (H23: 370t)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 449t (H26年末)	A+	<p>関係機関と連携して、講習会等での定期的な栽培指導や改植事業の周知を行ったことで、生産者の栽培技術・意欲が向上し、果実の品質アップに繋がったことにより、青果出荷受入量の目標値が達成された。</p> <p>また、販路開拓、果汁等の販売強化により、国内外でのユズの認知度向上が図られ、安定的な販売に繋がった。</p> <p>さらに、新商品の開発による販売拡大や既存商品の改良により、化粧品やポン酢等のユズ加工品の販売実績は増加し、目標値を達成できた。</p> <p><課題> <ul style="list-style-type: none"> ・(JA土佐あき) ・青果出荷へのシフト ・隔年結果及び品質低下対策 ・母樹園を活用した優良系統の普及 ・ユズ銀行(作業受託組織H23末解散)に代わる新たな労働補完体制の検討 </p> <p>(JA馬路) <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討 ・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上 </p>	<p>品質向上対策の取り組みを継続し、青果出荷量、加工用果皮の出来高量の増加を目指す。併せて隔年結果の是正に取り組み、青果及び加工仕向け用ユズの安定生産を目指す。</p> <p>また、消費者との交流イベント等での商品PRや、加工施設を活用した安定的な販売により、加工品の販売額増加に取り組む。</p> <p>さらに、園地流動化に向けた園地調査を北川村全域で実施し、村内全域のほ場台帳の作成及び園地流動化モデル(案)の作成に取り組みほか、馬路村では、作業受託組織の設立を含め、産地・地域を維持するための新たな仕組みや方向性について関係機関で検討する。</p>
作業受託等の新たな組織作り 北川村1組織	(H27年度末見込) 園地流動化モデル(案)の作成 (直近の実績) 組織設立に向けた方向性の決定	B		
作業受託等の新たな組織作り 馬路村1組織	(H27年度末見込) 組織設立に向けた方向性の決定 (直近の実績) 検討中	B		
加工仕向量4,670t (10%アップ) (H22: 4,250t)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 4,489t (H26年末)	A-		
加工用果皮の出来高 安芸: A品・B品1,000t (H23: 631t)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 972t (H26年末)	A		
加工用果皮の出来高 北川: A品・B品 80t (H23: 31t)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 65t (H26年末)	A		
JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶1.6億円 (H21: 0.8億円)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 0.67億円 (H26年末)	B		
JA馬路村 加工品販売額 化粧品5,200万円 (H21 : 1,700万円)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 1億7,800万円 (H26年末)	A+		
JA馬路村 加工品販売額 ポン酢他ユズ加工品 20.7億円 (H21: 20億円)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 30.3億円 (H26年末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>3 ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《東洋町》</p> <p>東洋町の特産品であるポンカンを活用した商品開発と既存商品を含めての販路開拓を行う。</p>	<p><販路の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西でのセールス活動（H24、H25） ・新聞や県内情報誌【ほっとこうち】を活用した広告宣伝（H25） ・高知県産品eコマースサイト「高知家のええもん家」へ掲載（H26） ・まるごと高知お取り寄せ・贈り物カタログのオンライン掲載開始（H27） 	<p><販路の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西でのセールス活動（H24、H25） <p>⇒新規取引先：1社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞や県内情報誌【ほっとこうち】を活用した広告宣伝（H25） <p>⇒新規取引先：4社</p>
<p>4 「安田（あんだ）の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発</p> <p>《安田町》</p> <p>マンゴー大福「安田の白い夢」を中心に、以前接触のあったバイヤーに対し、ロット数を確保した具体的な提案を行っていく。また、町内で生産される農産物を使用した新たな商品を企画開発し、県外を中心に販路開拓を行って、雇用の確保と生産者の所得の向上を図る。</p>	<p><商品の企画・開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンゴー大福、地元産牛乳のシュークリーム、文旦やブルーベリーのタルト他20種類の洋菓子を製造販売 <p><生産体制の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造販売拠点「安田（あんだ）と夢ファクトリー『キララ』」の整備（H24） <p><販路の開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるごと高知でのテストマーケティング（H24） ・高知龍馬空港の直営売店での販売開始（H25.2月～） ・東部博関連イベント等での販促活動の実施 	<p><生産体制の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間製造実績：34,000個（H26） <p>⇒月産4,000個以上の製造能力を実証、販路拡大にあたって生産体制の充実を示すことができた（H26）。</p> <p><販路の開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏で140名から商品アンケートを回収（H24） <p>⇒てんこす、高知龍馬空港等、販路の拡大につながった。</p>
<p>5 白下糖の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《芸西村》</p> <p>伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化（認知度アップ）と地域生産者の所得向上を目指す。</p>	<p><サトウキビ作付け面積の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者が3名増加（H24） ・脱葉機購入による作業の効率化（H25） ・収量増加を目指し、植え付け後のビニール掛け作業を2カ月ほど前倒し（H24～） <p><技術を継承する人材の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内男性（30代）に技術伝承を開始3名（H24）→1名（H26） <p><白下糖の品質向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ畑の土壌調査（H26） ・栽培暦の作成とそれに沿った栽培の開始（H26） <p><新たな商品の企画開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品：「黒糖みつ」を「かっぱ市」で販売開始（H26） <p><白下糖を活用した体験観光メニューの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝承館改修（製糖体験スペース増築）（H26） 高知県観光拠点等整備事業費補助金5,374千円 ・製糖体験モニターツアーの実施（H26） 	<p><サトウキビ作付け面積の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・植え付け後のビニール掛け作業を2カ月ほど前倒したことにより収量が増加23t（H24）→34t（H26） <p><白下糖を活用した体験観光メニューの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博に合わせて製糖体験メニューを開始

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
商品数 4アイテム (H22 : 2アイテム)	(H27年度末見込) 2アイテム (直近の実績) 2アイテム (H26年度末)	A-	海の駅東洋町での販売や関西でのセールス活動を行ったこと等により、既存商品の販売数はある程度増加したが、大きな伸びにまではなっていない。これは、事業者がボンカン生産者4人のグループであるため、加工品の製造あるいは新商品開発、販路拡大等に対する人材が不足しているのが主な要因であるが、当面は、そういった取り組みを強化していくことは困難な状態。 <課題> 1商品の生産体制見直しの検討、2ターゲット、営業方法、価格設定などの販売戦略の検討、3営業体制の強化といった、産業化に向けた課題の解決については、事業者とも協議をしたが、困難な状態。	産業化に向けた取り組みは困難な状況であるが、東洋町の特産品を残していくという視点から、東洋町のPRを兼ねた販路の開拓やこれまでと同様のセールス活動等の支援を行う。
既存商品の販売数 (換算本数) 5,000本 (H22:1,807本)	(H27年度末見込) 3,584本 (直近の実績) 3,584本 (H26年末)	A-		
売上高 100百万円 (H23:施設整備) (H24:生産開始)	(H27年度末見込) 3百万円 (直近の実績) 3百万円 (H26年度末)	A-	H24に「安田と夢ファクトリーキララ」を整備し、生産販売拠点ができた。H26は正規2名、短期5名の雇用を確保している。しかし、販路についてはテストマーケティングを実施したものの、大口の販路の確保には至っていない。 <課題> ・導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓	引き続き販売促進活動を実施し、認知度の向上を図る。
サトウキビ収穫量 40 t (H22:20 t)	(H27年度末見込) 34t (直近の実績) 34t (H26年度末)	A	生産者の生産意欲が高まってきており、芸西村の伝統ある特産品を伝承するという点では、地域APとして様々な取り組みを行った成果が現れつつある。 また、東部博に合わせて、体験観光メニューも開発される等、観光分野への活用も始まった。 <課題> ・製糖組合員の高齢化に伴い伝統技術の継承者(後継者)の育成 ・白下糖を活用した新商品・加工品の開発 ・サトウキビ作付面積の拡大	製糖組合としては、品質向上・収穫量拡大のための栽培歴の作成に継続的に取り組む。また、「かっぱ市」と協力しながら新商品や加工品の開発に取り組み、伝統ある特産品の伝承に取り組む。

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>6 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化</p> <p>《室戸市、東洋町》</p> <p>土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。</p>	<p><新規製炭者の育成と量産体制の強化></p> <p>《室戸市木炭振興会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規研修生の受け入れ H21～H26：12人 (うちH24～H26：2人) ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の募集（H27） <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し共同利用窯を設置。 H25：15t窯2基、12t窯2基 (12,148千円) ・新規研修生の受け入れ H21～H26：10人 (うちH24～H26：3人) ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の募集（H27） <p><品質・規格の向上と新商品開発ほか></p> <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品規格を10種から19種へ広げて、末端利用者ニーズに対応（H25）。 <p>《室戸市》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興計画の策定（H27） <p><共同出荷・販売の取組></p> <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木の共同購入、製品の共同出荷体制の確立（H21） 	<p><新規製炭者の育成と量産体制の強化></p> <p>《室戸市木炭振興会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の受け入れ3人（H27） ⇒新規就労者4名（H24～H27見込） ⇒販売額 64百万円（H22） →120百万円（H26） <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の受け入れ2人（H27） ⇒新規就労者4名（H24～H27見込） ⇒販売額 143百万円（H22） →178百万円（H26）
<p>7 木質バイオマス活用の促進</p> <p>《安芸市、芸西村》</p> <p>林地残材等を熱エネルギーとして利用していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木質ペレット製造工場の稼働（H22.11月～、（有）安岡重機） ・園芸用木質ペレットボイラーの設置 124基 うちH24～H26：50基 産振前 H20：7基 産振後 H21～H26：117基 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質ペレットボイラーの導入：50基（H24～H26） ⇒目標としている資源の利用量（5,000㎥）を概ね達成した。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
新規就労者確保 就労者 5名	(H27年度末見込) 就労者8名 (直近の実績) 就労者4名 (H26年度末見込)	A+	<p>輸入量の減少に伴い、需要に供給が追い付かない状況にあり、早期の増産が目標。そのためには、生産者の育成とともに原木を供給する体制の強化も必要であり、カシ類以外の雑木の有効利用等、伐り手の育成と安定した所得の確保にも取り組んでいる。</p> <p><課題> ・原木の安定調達（原木林の確保、伐り手の確保） ・2事業体（室戸市木炭振興会及び土佐備長炭生産組合）とも研修生の受け入れを行い、後継者の育成に努めているが、研修終了後に独立する際に必要な設備の確保 ・組織力の強化による、原木の安定確保と販売力の強化</p>	生産量の増産に向けて課題解決に取り組むとともに、地域の基幹産業に育てるため、生産者や伐り手の育成をはじめ、派生商品の開発等に取り組んでいく。
共同窯設置6基	(H27年度末見込) 4基 (直近の実績) 4基 (H26年度末)	A		
生産量の増産 30 t/年/基	(H27年度末見込) 27 t/年/基 (直近の実績) 12 t/年/基 (H26年度末)	B		
新規商品開発 1商品	(H27年度末見込) 0商品 (直近の実績) 0商品 (H26年度末)	B		
原木配給施設 1箇所	(H27年度末見込) 0箇所 (直近の実績) 0箇所 (H27年度末見込み)	B		
ペレット生産量能力 1,500t/年 (H23 :1,000 t/年)	(H27年度末見込) 828t/年 (直近の実績) 828t/年 (H26年度末見込み)	B	<p>木質ペレットボイラーの導入台数は目標を達成したが、導入推進に活用していた制度が見直されたことや、ペレットの安定供給に課題があること等から、今後の導入は、大幅に鈍化する見通し。 また、ペレット製造ラインの稼働率は向上しており、生産体制は整ってきた。</p> <p><課題> ・木質ペレットボイラーの地域内ペレット需要量（H26：約2,600t）が冬季に集中しているため、夏場におけるペレット利用先を確保して需要の平準化を図る ・木質ペレット製造に必要な原木の安定調達</p>	今後拡大する原木伐採を見据え、ペレット製造ラインの増設やエネルギーの地産地消に取り組む。
木質資源利用ボ イラー設置台数 100基 (H23：67基)	(H27年度末見込) 117基 (直近の実績) 117基 (H26年度末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>8 林業加工品の販売の促進</p> <p>《馬路村》</p> <p>木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。</p>	<p>《エコアス馬路村》</p> <p>＜国内展示会出展・新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の展示会等への出展（H21～） ・新商品Kutu-beraの開発（H25） <p>《馬路村森林組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画の策定（H24） <p>《全体》</p> <p>＜木製品の商品力・販売力強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬路林材加工協同組合が人工乾燥器1台を導入（H26） 高知県産材加工強化事業費補助金 28,237千円 	<p>《エコアス馬路村》</p> <p>＜国内展示会出展・新商品の開発＞</p> <p>インテリア・ライフスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談（H25）：126件 商談（H26）：10件 ⇒成約件数（H24）：3件 成約件数（H25）：4件 成約件数（H26）：1件 <p>元気四国物産展</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒成約＜即売＞件数（H25）：149件 <p>TOSAZAI展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談（H25）：2件 <p>プレミアム・インセンティブショー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談（H26）：34件 <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発：1品（H25）
<p>9 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大</p> <p>《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》</p> <p>キンメダイや定置漁獲物など、地域の主要魚種について鮮魚販売、加工品販売の強化を図る</p>	<p>＜県内市場及び県外市場の販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪の量販店での宣伝販売の実施 キンメダイ 4回：延べ26店舗（H26） <p>＜高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンメダイの冷凍フィレが、サンプル出荷（H25）を経て、定番化 <p>＜商品開発、販売促進活動の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁獲物の簡易加工（イカ沖漬け）を試行（H26）。 ・ハダカイワシ（低利用魚）のフライ商品やウツボ（低価格魚）のたたき商品等を製造販売（H26）。 	<p>＜県内市場及び県外市場の販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪の量販店と県漁協とでキンメダイの定期的取引が開始（H26） <p>＜高知県漁協等と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発：15品 ⇒キンメダイの冷凍フィレが業務筋等から高い評価を受けるとともに、地域の観光メニューであるキンメ丼用の材料として定番（H26） ⇒加工品販売額の増 H22 4,700万円 →H26 8,000万円
<p>10 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上</p> <p>《安芸市》</p> <p>加工処理能力の向上等によってシラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。</p>	<p>＜加工処理能力向上に向けた関係者協議と乾燥機等の機器導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス加工施設・乾燥機等機器の整備（H24） 産業振興推進総合支援事業費補助金 50,000千円 <p>＜処理能力向上に対応できる漁業生産体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した原魚確保の体制作り＜H25～＞ <p>＜商品力、販売力の強化と新たな販路確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーの招へい H25 5回 H26 5回 ・安芸水産が営業・企画担当を2名新規採用（H27） 	<p>＜加工処理能力向上に向けた関係者協議と乾燥機等の機器導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス加工施設・乾燥機等機器の整備による生産体制の強化 ⇒雇用の創出（H25～H26） 19人（うち長期7人 短期12人） ⇒水揚げ金額の増加 189,231千円（H23）→ 202,000千円（H26） <p>＜処理能力向上に対応できる漁業生産体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス加工施設を年間を通じて稼働させるめどが立った（H26）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
木製品出荷額 233,000千円 (H22 : 233,000千円)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 238,761千円 (H26年度末)	A+	エコアス馬路村は、展示会・商談会への出展などで、目標を上回る実績となっている。また、馬路村森林組合は、職員全員がワーキング方式による中期経営計画の策定に参加したことにより、組織が一丸となって、販売の拡大に取り組んでいる。 <課題> ・営業部門の活動の強化 ・森、木、エコ、田舎のストーリー性を含めた商品紹介 ・展示会やHPでのアンケートにより収集した顧客意見の活用と商品力アップ ・環境先進企業（協働の森参加企業等）への社用バッグ、ギフト用品等の提案 ・新商品の開発、商品のPR、販売戦略の見直し ・ヤナセスギを前面に出したブランド販売戦略 ・木製品の出荷額及び雇用者数の現状維持	地域の基幹産業と雇用の維持のため、新商品の開発やアンケートを活用した商品力のアップ、協働の森参加企業等への社用バッグの提案等により、木製品の出荷額及び雇用者数の維持に取り組む。
雇用者数59人 (H22 : 59人)	(H27年度末見込) 54人 (直近の実績) 54人 (H26年度末)	B		
(キンメダイ) 平均単価 1,200円/kg (H20~22平均: 1,146円/kg)	(H27年度見込) 1,500円/kg (直近の実績) 1,501円/kg (H26年度)	A+	「土佐沖どれ金目鯛」のブランド名で関西市場をメインターゲットとして売り込みを行ってきた結果、フェア等での販促・PRにより高級食材としてのキンメダイの認知度が向上し、平均単価の上昇に繋がった。 また、冷凍フィーレが業務筋等から高い評価を受けるとともに、地域グルメのキンメ丼の材料として定着し、販売額が増加した。	これまでメインで取り組んできたキンメダイのPR・販促活動も継続しつつ、東部地域の重要漁業である定置網の漁獲物（地元水揚げ金額の6割前後）の付加価値向上（高鮮度処理による差別化と販促活動、低利用魚・低価格魚の利活用等）に力点を移していく。
(大敷漁獲物) 水揚げ金額15億円 (H22~24平均: 13.3億円)	(H27年度末見込) 15.5億円 (直近の実績) 15.5億円 (H26年度末)	A+	<課題> ・キンメダイの効果的なPR活動の展開 ・高鮮度等売りにした定置漁獲物など地域の主要魚種の販路拡大 ・買い手のニーズを踏まえた生産・販売方法の検討 ・新たな加工商品の開発	
加工品販売金額 12,000万円 (H22:4,700万円)	(H27年度末見込) 8,000万円 (直近の実績) 8,000万円 (H26年度末)	A-		
水揚げ金額 201,000千円 (H23.1~12: 189,231千円)	(H27年度末見込) 218,000千円 (直近の実績) 202,000千円 (H26年末)	A+	シラス加工施設の整備を行ったことにより、シラスの加工や販売は着実に増加するとともに、新たな雇用も発生したが、漁獲量の増加に向けた取り組みは十分行われず、漁家所得の向上にまでは至っていない。 今後、漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を継続的し、漁業者の所得向上に繋がるよう検討していく。 <課題> ・シラスの付加価値向上に向けた取り組み ・加工施設に見合った原魚の確保	シラスを安芸市の特産品として広く認知していくとともに、経済効果に繋がるよう、飲食店なども巻き込んだ取り組みを進めていく。

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>11 海洋深層水の利用拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。 室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客へのPRを行う。 また、海洋深層水の水産への利用について検討を行う。</p>	<p>・県内外のイベント、講演等での深層水のPR (H21～)</p> <p>・一般家庭での利用拡大のため、市の条例等を改正するとともに、市HPにて給水案内等の周知を図った。(H26)</p> <p>・室戸ジオパークサイト(観光ガイド)と連携した説明・PRができる体制づくりが図られた。(H25～)</p> <p>・高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携する臨床試験の開始。 (海洋深層水の長期飲用などによる健康増進効果等を検証 H26～28の3カ年事業)</p>	<p>・給水地域拡大により、市外の給水申込者2名へ許可(H26)</p> <p>⇒ 給水量の増加 9名 給水量 0 → 1.2m³ (H27年7月末現在)</p>
<p>12 安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸の安全・安心な地域食材を活用し、新たな加工品の開発と既存商品の磨き上げを行うことで、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図るとともに、生産者の所得の向上を目指す。</p>	<p><事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大></p> <p>・新レシピ「安芸まるごと丼」(ナス、土佐シロネ、シラス活用)の開発(H25)</p> <p>・マンゴーかき氷、焼きマンゴー、ブルーベリームースなどの新商品開発(H26)</p> <p>・入河内大根の加工品の試作(H26)</p> <p><飲食施設の整備></p> <p>・廓中ふるさと館の施設改修(H26)</p> <p><人材の発掘と育成等></p> <p>・JA土佐あき婦人部「商人塾」受講(H24)</p> <p>・安芸商工会議所女性部による「安芸市おいしいものマップ」作成(H26)</p> <p>・まるごと高知でのテストマーケティング(H25) <まる弥カフェ></p>	<p><事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大></p> <p>・安芸「釜あげちりめん丼提供店舗」17店舗(H26)</p> <p>・「安芸まるごと丼」提供店舗7店舗(H26)</p> <p>・西日本ご当地じゃこサミット来場者数：延べ8,000人(H26)</p> <p>・新商品の開発 ⇒マンゴーかき氷、焼きマンゴー、ブルーベリームースなどの新商品開発(H26) <メリーガーデン></p> <p>⇒入河内大根の加工品の試作(H26)</p>
<p>13 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進</p> <p>《奈半利町》</p> <p>地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。</p>	<p><施設整備の検討></p> <p>【農産加工施設<町>】</p> <p>・新商品の開発及び担い手の人材育成のための、エリアマネジメントを実施した(H26)</p> <p>【水産加工施設】</p> <p>・新商品の開発及び担い手の人材育成のための、エリアマネジメントを実施した(H26)</p> <p><加工施設の整備></p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、農産加工施設(JA)の増床及び機械の追加導入を行った(H26)</p> <p>総事業費 9,694千円 産業振興推進総合支援事業費補助金 3,953千円</p>	<p><加工施設の整備></p> <p>・奈半利味噌の増産体制の確立</p> <p>5,755kg(H25実績) →8,500kg(H27見込)</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
アクアファームの海 洋深層水使用料 35,000千円 (H22 : 27,000千円)	(H27年度末見込) 28,500千円 (直近の実績) 27,221千円 (H26年度末)	A-	室戸ジオパークサイトの1つとして、連携した説明・PRができる体制づくりが図られるなど、深層水のPRのための新たな取り組みも行われている。 また、高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携する臨床試験等が始まるとともに、深層水の一般家庭での利用拡大のため、市条例の改正や市HPでの給水案内等も行われている。 <課題> ・給水量拡大に向けた取組 ・今後の深層水供給の維持・向上に対応するための設備の維持・更新 ・深層水の優位性の早期解明	深層水利用の拡大を図るため、深層水商品の販売促進や水産への利用等を進めるとともに、深層水の臨床試験の進捗にも注視する。
		—	釜あげちりめん丼や安芸まるごと丼など、地域食材（ユズ、ナス、シラス）を活かした食の提供が進んでいるとともに、スイーツ（マンゴーかき氷等）の加工品開発の動きも出始めた。 ただ、これらの動きも、各事業主体ごとの取り組みが中心であり、地域を巻き込んだ取り組みまでは至っていない。 <課題> ・地域食材を活用した新たな加工品等の開発と販売 ・食の提供の強化	地域食材を活用した加工品開発については、農業振興部が取り組む6次産業化の動きと連携をしながら、成功例を作っていく。
売上額 農産加工品 750万円 (H25 : 500万円)	(H27年度末見込) 683万円 (直近の実績) 500万円 (H26年末)	A	J A土佐あきの農産加工施設（味噌加工施設）の増床及び製造機器（味噌充填機1台、自動麴発酵機1台）の追加導入により、奈半利味噌を増産する体制が整った。 また、水産加工施設についても、本年7月に県の地域づくり補助金が交付決定<20,000千円>となり、本年度内完成に向けて取り組みが進んでいる。 さらに、農産加工施設<町>についても、本年度内の施設整備に向けて取り組みが進んでいる。 <課題> ・既存商品の販路拡大 ・新商品の開発及び販売体制の強化	現在、施設整備を進めている加工施設を活用し、地域特産品の生産と販路の拡大による生産者所得の向上を目指す。
売上額 水産加工品 200万円 (H25 : 150万円)	(H27年度末見込) 332万円 (直近の実績) 332万円 (H26年末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>14 地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《田野町》</p> <p>田野町及び周辺地域の地域資源を活用した商品を開発し、販路を拡大していくことにより、雇用の確保と地域の経済の活性化を目指す。</p>	<p><商品開発と製品化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩シャーベット「塩姫」等、生姜のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始（H24～25） ・天日塩アイス的一般向け商品の開発（H25） <p>総事業費 1,182千円 産業振興推進総合支援事業費補助金 514千円</p> <p><販売ルートの開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会等への参加（H24～） ・地域イベントへの出店（H24～） ・まるごと高知でのテストマーケティング（H24） 	<p><販売ルートの開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談件数（H24）：9件 ・商談件数（H27）：4件 <p>⇒ 成約件数（H27）：3件</p>
<p>15 完全天日塩の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《田野町》</p> <p>製塩ハウス施設等の整備と併せて新たな就業者の確保・育成を行うとともに、塩づくり体験を通して、完全天日塩の産業化と交流人口の拡大を図る。</p>	<p><塩づくり体験・研修施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製塩体験施設の整備（H24） <p>総事業費8,296千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 4,147千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製塩体験施設オープン（H25） ・台風被害によりH26.8月以降休止していた製塩体験施設（町施設）での見学・体験受け入れ再開（H27.4月～） ・町内の産業振興や移住促進等の事業とあわせて、体験施設運営等にかかわる地域おこし協力隊を導入（H25：4人、H26：2人、H27：2人、H27.8.1現在4人）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製塩体験施設の整備による体験受入の取組が開始された。
<p>16 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化</p> <p>《室戸市》</p> <p>地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設等を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の店舗・アンテナショップ等への野菜等の販売により、さらに販路が広がった。 ・基本構想・基本計画を策定し、道の駅キラメッセ室戸を一体的に機能強化していく方向性が定まった。（H25） <p>産業振興アドバイザーの招へい 1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場の整備及び駐車場の造成、トイレの改修（H26～） <p>産業振興推進総合支援事業費補助金 47,064千円（予定）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品インターネット通信販売サイトの制作（H24） ・新商品開発<3品>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
酒粕商品販売額 42,000千円 (H23 : 4,200千円)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 8,810千円 (H26年度末)	A-	酒粕スイーツ、塩シャーベット、生姜のお菓子等の開発・販売に至った。しかし、一定の販路は確保したものの、売上増加に向けた販路拡大が課題である。 <課題> ・販売場所及び体制の確立 ・製造コストの低減 ・生産体制の効率化 ・新商品開発のための地域食材の選定 ・酒造場、農水産物、加工業者等との連携 ・販路の拡大	引き続きイベント等への出店による認知度の向上や商談会への参加による販路拡大を目指すとともに、新たな商品開発を進めていく。
体験受入回数100回 (H23: 50回)	(H27年度末見込) 40回 (直近の実績) 14回 (H26年度末)	B	景観光拠点等整備事業費補助金を活用し製塩体験施設(町施設)を整備したことにより、体験受入による交流人口の拡大に取り組む環境ができた。 なお、台風被害によりH26.8月からH27.3月まで同施設での見学・体験が休止していたため、H26実績は同年4月から休止までの間の数字に留まっているが、H27.4月から同施設が再開したことにより、H27年度については一定の体験受入回数や人数になることが見込まれる。 また、地域おこし協力隊を導入することにより、体験製塩施設の企画・運営等に関わる人材の育成に取り組んでいる。	中芸地区の観光スポットとして、製塩体験施設での一般客向けの見学・体験だけでなく、教育体験としての受け入れにも取り組んでいくことにより、交流人口の更なる拡大を図る。
受入人数 体験960人 (H23 : 体験330人)	(H27年度末見込) 208人 (直近の実績) 82人 (H26年度末)	B	<課題> ・新規就業者の確保に向けた人材育成 ・新規就業者の独立に向けた環境整備 ・集客できる体験メニューの充実と田野町内での周遊促進	
受入人数 見学1,040人 (H23 : 見学458人)	(H27年度末見込) 472人 (直近の実績) 212人 (H26年度末)	B		
生産量 6t (H23:2t)	(H27年度末見込) — (直近の実績) 3t (H26年度末)	A-		
直販所「梁市」来場者 258,000人 (H23: 244,968人)	(H27年度末見込) 230,000人 (直近の実績) 230,887人 (H26年度末)	B	加工施設の整備に合わせて、新たな加工品の開発等、来場者の増加や満足度の向上に向けた取り組みが進んでいる。 また、県外に向けての販売も増加しており、取扱商品の拡大のため、庭先集荷等の新たな取り組みも試行している。 <課題> ・取扱い生鮮品(野菜、果物等)の消費拡大 ・地場産品を利用した加工品の開発	取扱いの種類・量を増やすための取り組みを進め、地域への波及効果を拡大していく。

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>17 海の駅を拠点とした地域振興 《東洋町》</p> <p>高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。</p>	<p><海の駅の整備> ・H24.7月の火災による焼失のため、海の駅の施設整備を実施（H25） 総事業費 95,175千円 産業振興推進総合支援事業費補助金 50,000千円</p> <p><地域の情報発信> ・フェイスブックによる情報発信（H26.2月～）</p> <p><高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携> ・「かっぱ市」（芸西村）の施設見学を実施（H26）</p>	<p>・海の駅の整備による販売等の再開 ⇒売上金額 H23年度：127,037千円 →H26年度：141,982千円 ⇒雇用の創出（H25～H26） 11人（うち長期9人 短期2人）</p>
<p>18 道の駅「田野駅屋」の機能強化（特産品開発及び情報発信）と施設整備等 《田野町》</p> <p>地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅屋の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。さらに、それらに資する施設整備等を行う。</p>	<p><情報発信機能の強化> ・イベントの受入れや参加を通じて、情報発信や田野町のPRに取組を進めている。</p>	<p>年間来客者数が20万人超で推移しており、道の駅として地域の特産品販売や観光情報発信を行った。</p>
<p>19 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化 《芸西村》</p> <p>地場産品直販所「かっぱ市」のリニューアルオープンに伴い、花卉類・鮮魚類の販売を拡充させ、他の直販所と差別化することで売上の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図る。 村内で生産される農産物等（ピーマン・黒砂糖等）を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。</p>	<p>・既存加工品の磨き上げ等（H25） 産業振興アドバイザーの招へい 3回 ・H24.10月～店内調理場での弁当等加工品販売開始 ・店内にイートインコーナー設置（H26）</p> <p><新たな商品の企画開発> ・新商品：「黒糖みつ」の販売と黒糖みつを使用したかき氷の販売開始（H26）</p>	<p>・ドレッシング「ばかったれ」のブラッシュアップ ⇒販売数の増 H24.6月～H25.5月 67個 →H25.6月～H26.5月 627個</p> <p>・「黒糖みつ」の製造・販売 ⇒販売数 H25.6月～H26.5月 278個</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
来場者数180,000人 (H22:153,446人)	(H27年度末見込) 157,834人 (直近の実績) 157,834人 (H26年度末)	A-	<p>台風の影響で、夏場の売り上げが伸び悩む等、不測の事態にも遭遇したが、15万人を超える来場者があり、地域活性化の拠点施設としては、まずまず順調にスタートが切れた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の強化 ・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の付加 	<p>地域活性化の拠点施設として、地域特産品を活用した加工品の製造・販売による地産外商に積極的に取り組む。</p> <p>また、観光拠点としての機能の付加についても取り組むことで、地域活性化の拠点施設としての機能強化を図る。</p>
		—	<p>売上金額・来場者数といった数値は、堅調に推移しているものの、地域農産物等を活用した加工品の開発・販売の強化等が課題となっており、現状のままでは大きな伸びが期待できない状況。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信機能の更なる強化 ・地場産品を活用した魅力ある特産品（加工品）の開発と販売体制の強化 ・施設整備に向けた関係機関等の調整 ・運営体制の強化 	<p>左の課題解決のために、まず、町と協力をしながら運営体制の見直しを検討していく。</p>
売上額106,000千円 (H22:87,000千円)	(H27年度末見込) 135,000千円 (直近の実績) 135,000千円 (H26年度末)	A+	<p>数値目標は大きく上回っているが、まだまだ売り上げ増加の可能性があると思われるので、下記課題の解決に向けて取り組みを進めていく。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉販売量の確保 ・新商品の開発、新商品の原材料確保（サトウキビ等） ・商品集荷システムの構築 ・テイクアウト商品の充実 	<p>課題解決に向けた取り組みを進めるとともに、集落活動センターと連携し、地産外商などの新たな市場に挑戦していく。</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>20 安芸地域の観光振興の推進 ～東部地域博覧会の開催～</p> <p>《安芸地域全域》</p> <p>安芸地域における市町村が連携して地域博覧会を開催することを契機に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。</p> <p>併せて、地域博覧会により蓄積された広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション機能や地域コーディネート機能を持つ組織をつくることにより、地域博覧会後における広域観光の推進体制を整備する。</p>	<p>＜安芸地域における地域博覧会の開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸広域市町村圏事務組合による東部博基本計画策定（H25） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,763千円 ・東部博推進協による東部博の準備のためのプロモーション活動（H26） 高知県広域観光推進事業費補助金 30,000千円 ・安芸広域市町村圏事務組合による東部博開催に関連したセールス活動や誘致活動（H26） 高知県広域観光推進事業費補助金 1,474千円 ・H27.4.29「高知県東部地域博覧会」開催 <p>＜周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行等の誘致及び体験型観光の内容充実 高知県観光拠点等整備事業費補助金 ・安芸広域市町村圏事務組合による教育旅行誘致等（H24） 1,749千円 ・馬路村による観光素材収集、パンフレット作成（H25） 1,422千円 高知県広域観光推進事業費補助金 ・安芸広域市町村圏事務組合による教育旅行誘致用の広域パンフレット作成（H25） 1,691千円 ・体験型観光の内容充実や教育旅行等の誘致（H27） 3,000千円 <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設等整備 高知県観光拠点等整備事業費補助金 ・安田町の化石体験観光施設整備（H24） 5,359千円 ・奈半利町ふるさと海岸への屋外トイレ等の整備（H26） 6,597千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの造成・ブラッシュアップ 東部博ガイドブック春夏号に60件掲載 ・教育旅行誘致 1件 ・安田町の唐浜層化石発掘体験場を整備 ・奈半利町ふるさと海岸の屋外に手洗い場を兼ねたトイレを設置 <p>⇒圏内主要施設訪問者数 2,180,000人（H23～25平均） →2,556,000人（H27見込）</p>
<p>21 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興</p> <p>《室戸市》</p> <p>世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や商品開発に取り組み交流人口の拡大を図っていく。</p>	<p>＜ガイド育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイド養成講座等の実施（H21～） <p>＜拠点施設整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸世界ジオパークセンターの整備（H26） 外構工事実施設計等（総事業費7,039千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 4,671千円 外構工事（総事業費92,625千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 34,944千円 展示整備事業（総事業費186,745千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 124,496千円 <p>＜サイト整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行当黒耳海岸サイトの整備（H26） 実施設計（総事業費2,430千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,215千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークガイドの育成や室戸世界ジオパークセンターの整備により受入体制が整いつつある。 ⇒ジオパークガイド登録者数 20人（H22）→ 57人（H26） ⇒ジオパーク関係施設来訪者 53,473人（H22）→86,581人（H26）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
圏内主要施設訪問者数 2,556,000人 (H23～25の 平均値 : 2,180,000人)	(H27年度末見込) 2,556,000人 (直近の実績)	A+	「高知県東部地域博覧会」の開始により、「室戸ジオパークセンター」や「モネの庭」といった拠点施設を中心に、順調な来場者数となっている。しかし、この動きが、東部地域全体への集客や経済効果に十分繋がっていない。 <課題> ・広域的な連携強化 ・戦略的な商品造成 ・教育旅行に向けた民泊及び体験メニューの充実と人材育成 ・広域観光組織の立ち上げ	左の課題解決のためにも、まず、平成27年度中に広域観光組織を立上げ、東部博終了後の商品造成・販売等に繋げていく。
圏内宿泊者数 150,000人 (H23～25の 平均値 : 133,000人)	(H27年度末見込) 150,000人 (直近の実績) 137,935人 (H26年末)			
ジオパークガイド登録者数40人 (H22:20人)	(H27年度末見込) 57人 (直近の実績) 57人 (H26年度末)	A+	東部博効果もあり、数値目標は上回っている。 また、本年4月29日にオープンした「室戸世界ジオパークセンター」についても、滑り出しは順調である。 <課題> ・受入れ体制の強化 ・世界ジオパーク再審査	”室戸ジオパーク”が、わざわざ足を運んでもらえる場所となるよう、受入れ体制の整備や新たな商品開発などを進めていく。
ジオパーク関係施設 来訪者 70,000人 (H22 : 53,473人) ※ドルフィンセンターを含む	(H27年度末見込) 86,581人 (直近の実績) 86,581人 (H26年度末)	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>22 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸岬漁港（新港）の「海の駅とろむ」を核として、マリンレジャーによる交流人口の拡大を図る。</p> <p>室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設建設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大による事業売り上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H24年度に新たな施設及び陸上プールを整備したことにより、より安心・安全にふれあい体験が利用できるようになった。 ・H25年度には陸上プールに接続した補助プール（直径5m、水深1.5m）を整備した。 <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博に関連するテレビ・雑誌等の取材対応や、フェイスブックによる情報発信（H26） 	<p><ドルフィンセンターの機能充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設及び陸上プールの整備（H24） <p>⇒物販・休憩スペースも確保され、来場者の満足度の向上に向けた準備が整った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助プールの整備（H25） <p>⇒幼児や高齢者も安心して利用できる体験プログラムの開発が可能となった。</p> <p>⇒来場者の増</p> <p>H24年度来場者数 22,113人 H25年度来場者数 31,626人 H26年度来場者数 24,431人 H27年度第1四半期来場者数：8,144人</p>
<p>23 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興</p> <p>《安芸市》</p> <p>岩崎弥太郎生家エリアや土居廓中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸市観光ボランティアガイド養成講座等の開催（H24～） ・「廓中ふるさと館」の改修（H26） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 15,000千円 ・安芸観光情報センターの改修（H26） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 498千円 ・岩崎弥太郎の銅像移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸市観光ボランティアガイド会員の増加 30名（H25）→32名（H26） ・岩崎弥太郎生家の隣接地に銅像が移転 <p>⇒お互いの観光施設としての魅力が向上した。</p>
<p>24 東洋町における体験観光の推進</p> <p>《東洋町》</p> <p>サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。</p>	<p><海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町観光振興協会の観光振興補助事業を活用し地元ダイビングスクールが新たな体験観光プログラムを開発（H25） ・体験ガイド認定事業の実施（H26） <p><受け入れ施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白浜キャンプ場炊事場を整備（H26） 高知県観光拠点整備事業費補助金 1,632千円 <p><宣伝・広報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町観光ガイドブック「東洋町探訪」作成（H25） 	<ul style="list-style-type: none"> ・白浜キャンプ場炊事場の整備（H26）により、キャンプ場利用者の利便性が向上した。 <p>⇒白浜キャンプ場利用者数 1,424人（H23）→1,544人（H26）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験観光プログラムの開発 12種類（H26） ・体験ガイド 7団体2個人を認定（H26）
<p>25 藤村製絲を活用した観光振興</p> <p>《奈半利町》</p> <p>藤村製絲を活かした観光振興をなはり浦の会とともに交流人口の拡大を図る。</p>	<p><観光文化施設（記念館）の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤村製絲記念館を建設（H26） 総事業費86,940千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 37,471千円 <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こうちじん」（高知県観光コンベンション協会発行のパンフレット：H27.3月発行）での観光スポットとしてのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・東部地域博覧会スタートと同日（H27.4.29）に藤村製絲記念館が開館し、中芸地区に新たな観光施設が加わった。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
室戸ドルフィンセンター来場者数 27,000人 (H22 : 22,181人)	(H27年度末見込) 22,431人 (直近の実績) 22,431人 (H26年度末)	A-	<p>室戸ドルフィンセンターの指定管理者であるNPO法人の現場体制が大きく見直された結果、来客の受け付けや誘導などがスムーズに行えるようになった。また、財務面をはじめ、広報、営業等の改善やトロムサイトで計画されているダイビング事業との連携等についての検討も始まっている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークサイト等地域の観光素材を組み合わせた情報発信やメニュー作り ・より多くの集客を図るための広報・営業の検討 ・周辺施設等との連携による集客 ・ダイビング事業と連携した事業推進体制の整備 	室戸ドルフィンセンターについては、体制固めと営業活動を進めるとともに、他の観光施設などと連携したメニュー作りを進めていく。
		-	<p>ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきたことにより、観光拠点としての魅力が向上した。</p> <p>また、地域おこし協力隊が中心となって、「伊尾木洞」の観光施設としての磨き上げや、安芸市観光協会が主催で東京都での地場製品の販売が行われる等、新たな観光関連の取組が行われるようになってきた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎弥太郎を活かした取組の強化 ・新規ボランティアガイドの獲得 	岩崎弥太郎の出身地ならではの、観光資源をさらに充実するため、三菱グループとの連携を深めていく。 また、他の観光施設と連携すること等により、誘客の増加に努める。
		-	<p>東部地域博覧会の開催を契機に、町観光協会を中心として、「海上散歩(SUP)」や「こけら寿司作り体験」など12種類の新たな体験活動プログラムの開発がおこなわれる等、交流人口の拡大のための具体的な動きが見えてきた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を生かした体験プログラムの開発 ・地元事業者(サーフショップ等)との協調 ・受入施設の整備 	新たな体験プログラムの開発や体験ガイドの認定といった町観光協会の取組を支援するとともに、受入れ施設の整備についても町と協議を行い課題解決に取り組む。
町並みガイド実績 800人/年 (H24: 390人)	(H27年度末見込) 418人 (直近の実績) 418人 (H26年度末)	A-	<p>H27.4.29に藤村製絲記念館が開館したことにより、奈半利町の町並み散策の魅力が向上したが、同館は開館したばかりであることから、今後周知を図っていく必要がある。</p> <p>「なはり浦の会」の活動拠点としての活用については課題が残っており、今後しばらくはガイドコースの一つとして活用していく予定である。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤村製絲記念館の活用拡大 ・関係機関との連携 ・広報等の強化 	交流人口拡大に向けて、左の課題の解決に向けて同館のみならず奈半利町の町並みの周知をしていく等について取り組む。

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>26 中芸地区における広域観光の推進</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>官民が協働して、地域内にある観光資源を磨き上げ魅力のある滞在型・体験型旅行商品づくりを行いながら、観光客の増加を図り、地域の経済の活性化を推進する。</p>	<p><中芸観光協議会の設立と受入体制の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光協議会の設立 (H24) <p><魅力ある旅行商品づくりと観光情報の発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光ビジョンの策定 (H24) 総事業費3,919千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,500千円 ・馬路村観光パンフレットの作成 (H25) 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,422千円 ・GW期間中の臨時観光案内 (H25～) ・GW期間中の中芸観光キャンペーンの開催 (H26) ・高知県東部地域博覧会における「中芸パビリオン」の運営・コアイベント2件の実施 (H27) ・モニターツアーの実施等による中芸地域の観光素材の磨き上げ ・地域メニューの開発に取り組むとともに、中芸食のめぐみ満祭フェアガイドブックを発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光キャンペーン参加者：22人 (H26) ・臨時観光案内所来訪者：H26 673人、H27 1,058人 ・高知県東部地域博覧会におけるコアイベントへの参加者 中芸食のめぐみ満祭フェア：約2,800人 魚梁瀬森林鉄道アート&ライブ (2回)：約200人 ・中芸食のめぐみ満祭フェアガイドブック発行による中芸地域の食情報の発信 ⇒東部地域への誘客が図られた。
<p>27 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>森林鉄道遺産（産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等）を中芸地区の新しい地域資源（地域遺産）にとらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。</p>	<p><遺産の活用と普及啓発活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開通100周年事業の実施 (H23～H24) ・旅行会社等によるツアーの催行 (H25) ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主多岐な活動の充実 (H25) ・魚梁瀬森林鉄道開通100周年記念事業 (H24) 総事業費1,803千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 899千円 <p><遺産の保存管理・活用計画の策定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の発足 (H26) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー等による林鉄ガイド実績 (H25) 822名 (H26) 846名 (H27) 225名 (4月～7月)
<p>28 体験型観光と地域の加工品づくりの推進～大野台地は、えいところ!～</p> <p>《田野町》</p> <p>交流事業の推進による交流人口の拡大と併せて新たな加工品開発に取り組むことで、農畜産物の消費拡大や所得の向上、雇用機会の創出を図る。</p>	<p><体験型観光の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事業の受け入れ (H24～) ・体験交流事業を主催 (H26) <p><加工品の開発・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベント等への出店 (H24～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流イベントへの参加者 H24：3回 161人 H25：3回 32人 H26：4回 111人 ・地域イベント等への出店 H24：7回 H25：8回 H26：5回

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
		—	<p>H24に策定した中芸観光ビジョンに基づき、中芸地域の観光資源の磨き上げや情報発信等に取り組んでいる。</p> <p>H27.4開催の東部地域博覧会を目指して、中芸観光協会を中心に取り組んできた地域メニューや体験観光については、課題はありつつも好評をいただいている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある旅行商品の造成 ・ガイド等の受入体制の整備 ・東部地域博覧会（H27.4.29、開幕）の円滑な運営 	<p>運営側として、東部地域博覧会で蓄積しつつある経験を、来年度以降に活かせる体制作りを検討する必要がある。これについては、AP20での平成27年度中の広域観光組織の立上げと足並みを揃えて検討していく。</p>
ツアー客1,500人 (H22 : 1,171人)	(H27年度末見込) 846人 (直近の実績) 846人 (H26年度末)	B	<p>魚梁瀬森林鉄道に係る様々なイベントや研究活動等がなされており、林鉄ガイドも中芸地域の体験型観光の一つとして定着している。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5カ町村広域の窓口である中芸観光協議会の体制強化 ・ガイド、食事、宿泊等受入体制の強化 ・高知家まるごと東部博を契機とした更なる情報発信 ・5カ町村共同での保存・管理・活用計画の策定 	<p>旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画がH27年度中に策定予定であることから、同計画に沿った保存活用を行う。</p>
		—	<p>ごめんなはり線ウォーキングイベントの受け入れは定着しており、毎年多くの参加者が地区を訪れている。</p> <p>今まで事業の企画等を行ってきた町の地域おこし協力隊が退任したため、定例イベントへの出店以外の今後の事業について、計画を立てることができておらず、大きな課題となっている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局体制の確立、受入れ・実施体制の強化 ・地域住民への活動理念の浸透 ・他地域の資源と連携したメニューづくり ・活動を収入に繋げていく仕組みづくり ・地域資源を活かした農業体験メニューの実施 ・民泊受入れ家庭の増 	<p>現状では拡がりが見られないものの、定着している定例イベントの開催等の一定の取り組みは進めていることから、左の課題を踏まえた活動の見直しを図る。</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果						
<p>29 世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大</p> <p>《北川村》</p> <p>県外での広告宣伝や、それに連動した営業活動によって、来園への新たな動機付けにつながる施設整備やイベントの実施をPRして集客力を高める。</p>	<p>＜高知県内を中心に日帰り可能地域を対象とした広告宣伝と営業活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日帰り可能エリア＜四国全域、岡山、神戸＞への営業、団体＜学校、グループ旅行＞への営業（H25） ＜新商品の開発と販売促進＞ ・カフェメニューの増加（H25） ・カフェの新メニュー・月替わりランチメニューの提供（H26） <p>＜経営改善に向けた取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を分析し、集客効果、収益性の高いイベントを実施（H25） ・販売部門＜ギャラリーショップ、フラワーショップ、カフェ＞の分析、強化（H25） ・接客マニュアル作成に向けた研修の実施（H26～） <p>産業振興アドバイザーの招へい 3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信及び営業活動とともに、イベントの強化やカフェにおける新メニューの提供、接客改善などの取組によりモネの庭の魅力が向上し、来園が促進された。 <p>⇒入園者数（決算期の毎年2月から翌年1月までの年間入園者数）</p> <table border="1"> <tr> <td>H24.2～H25.1</td> <td>55,288人</td> </tr> <tr> <td>H25.2～H26.1</td> <td>56,281人</td> </tr> <tr> <td>H26.2～H27.1</td> <td>54,115人</td> </tr> </table>	H24.2～H25.1	55,288人	H25.2～H26.1	56,281人	H26.2～H27.1	54,115人
H24.2～H25.1	55,288人							
H25.2～H26.1	56,281人							
H26.2～H27.1	54,115人							
<p>30 旧稚名小学校を活用した地域振興</p> <p>《室戸市》</p> <p>旧稚名小学校を海をテーマにした観光施設（深海生物、ウミガメ等を展示するミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースの設置等）に改修し、併せて集落活動センターを設置することにより、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図る。</p>	<p>＜施設改修に向けた地域・関係機関との検討・協議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稚名議会との話し合い（H26～） ・NPOウミガメ協議会との面談（H27） ・稚名小利活用検討委員会の立ち上げ（H27） 	<ul style="list-style-type: none"> ・稚名小利活用検討委員会の立ち上げ（H27） 						
<p>31 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落づくりを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター「かまん東川」の開設（H25.9月） <p>＜地域資源を活用した新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊による地域資源を活用した商品開発（紅茶やはちみつ等）や東京等での商品販売（H26） ・入河内大根を活用した商品の検討（H26～） <p>＜農産物等の販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域外の方が製品を購入できるような場の開設について検討を開始（H26～） <p>＜交流人口の拡大と移住促進への取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東川若いもんグループによるモニターツアー等イベントの企画、運営（H26） ・東川ふれあい市の開催（H26） ・お茶摘み体験（H26） ・フェイスブックでの情報発信（H26） ・東川観光モニターツアー（H26） ・入河内大根収穫体験（H26） ・空き家調査の実施 	<p>＜地域資源を活用した新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産物を使った加工品開発 ・東京都内の自然食品店等でのテスト販売 <p>⇒ 商品数 7品</p> <p>＜交流人口の拡大と移住促進への取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者 ・お茶摘み体験：50人 ・東川観光モニターツアー：6人 ・ゆずとり体験：25人 ・東川ふれあい市：約200人 ・東川健康ウォーク：58人 ・入河内大根収穫体験：4人 <p>⇒地域の知名度の向上と交流人口拡大につながった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP開設 ・空き家調査による移住者等が利用可能な空き家1棟の確保 						

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
入園者数65,000人 (H22 : 53,369人)	(H27.2月～H28.1 月見込) 65,000人 (直近の実績) 54,115人 (H26.2月～H27.1 月)	A-	様々な取組が行われているが、集客力の強化には結び付いていなかった。しかし、東部地域博覧会スタート後は前年同月より入園者数が増加していることから明らかとなり、東部博の中芸地区のパビリオンとして、各種の媒体やテレビ番組でも紹介されたことにより、課題であった認知度は一定向上したと思われる。 <課題> ・入園者数の減少傾向（開園1年目の20万人超から、近年は5万人台で推移） ・誘客対策の強化 ・営業体制の強化	引き続き来園促進のための営業活動、イベント等を実施するとともに、接客マナーの向上等に努め、入園者の満足度の向上を図っていく。
		—	稚名小学校利活用検討委員会委員会はスタートしたが、地域住民、NPOウミガメ協議会、行政の思いが、微妙にずれており、今後これを調整していく段階。 <課題> ・稚名小利活用計画への住民参画の意欲醸成 ・施設の効果的な活用に向けた事業の進捗管理	・地域住民の主体的な活動を促進 ・施設利用者のターゲット層を検討し、改修設計等へ反映する
		—	従来から複数の団体を組織して住民主体の活動を活発に行っていた地域が、集落活動センターの設置を契機に、集落の維持や活性化を目的として取り組み始めた。 また、あらたに地区の若手が「東川若いもんグループ」を立ち上げ、地域資源を活用した商品開発や新たなイベントを開催し、交流人口の拡大に向けて取り組みを行っている。 <課題> 地域の活動を収入につなげる仕組みとなるまでには至っていない。さらに、商品開発に向けた研究や工夫を行うとともに、販路の拡大に向けた取り組みを行っていく必要がある。 また、集落活動センターの持続的な活動に向け、センターの体制強化を図っていく。	集落活動センターを中心とした商品開発、販売推進体制の構築

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>32 安田中山地区の活性化プロジェクト</p> <p>《安田町》</p> <p>地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高知大学・安田町連携事業協議会（H24） ・「集落活動センターなかやま」の開設（H25.4月） ・旧中山小中学校（集落活動センター）の耐震診断（H25） ・安田ふるさと応援隊（地域おこし協力隊）1名の採用（H25） ・集落調査2名の採用（H26） ・中山を元気にする会の月例化（H25～） ・なかやま山芋まつりの活性化（H25,来場者前年比約1.5～2倍） ・集落活動センター拠点施設の落成（H26.12月） ・ふるさと応援隊員の活動を通じた地域住民の参加意識の醸成 	<p><高知大学との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんむすび隊による自然薯栽培支援 ・医学部看護学科実習の受け入れ <p>⇒ 山芋栽培面積の拡大 H23：0畝 → H27：4畝</p> <p>⇒ 山芋まつり来場者数 H23：1,000人 → H26：1,200人</p>
<p>33 北川村温泉を核とした中山間振興</p> <p>《北川村》</p> <p>北川村温泉の建築に併せ、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。</p>	<p><温泉施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村温泉リニューアル基本計画策定（H25） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,155千円 ・基本設計及び実施設計（H26） <p><地域交流活動、集落活動の展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産品を販売する温泉直販市の設置（H25～） ・休耕田の整地と花畑作り、イベントの開催（H26～） ・温泉レストランでの地元産品の活用（H26～） 	<p><地域交流活動、集落活動の展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花開花によるイベント来訪者のべ約350人 ・モネの庭、地元建設会社、観光協会などを巻き込んだ協議会活動の広がり <p>⇒北川村中部地区集落活動協議会設立の目的である「地域の繋がり」が作られつつある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産品の販売が地元住民にとって多少の収入源になっている
<p>34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト</p> <p>《馬路村》</p> <p>馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。</p>	<p><外部人材の導入と住民組織づく></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬ふるさと応援隊2名導入（H26.10月） <p><ふるさと応援隊と協働した交流拠点の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬パスポート、雛祭りなど交流人口拡大に向けた活動の開始 	<p><交流人口拡大に向けた取り組みの開始></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬パスポートの発行（絵ハガキの販売） <p>⇒販売実績 約360枚</p> <p>取り組みが高知新聞等で取り上げられ、販売したハガキのうち数件ではあるが、実際に魚梁瀬地区に来訪しパスポートとして利用され、地区の知名度の向上につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区住民所有の雛人形の展示 <p>⇒3/3～4/5来場者数 118名</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末見込 及び 直近の実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
		—	<p>集落活動センターが設置され、ふるさと応援隊員の活動や大学との連携を通して、地域住民の集落活性化への取り組みに対する参加意識が芽生えてきた。旧中山小中学校に地域の拠点整備されたことにより住民の集う機会も増加し、近隣に映像制作企業のオフィスが設置されるなど、集落活動センターを中心にした新たな動きが生まれてきた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターが引き続き円滑な運営を行っていけるよう、外部人材を有効的に活用していく。(地域おこし協力隊員による運営支援の継続) ・旧中山小中学校を地域の拠点として活用していくために、集落活動センター以外の未改修部分に新たな機能を付加させていくよう、旧中山小中学校活用計画を、町や住民、外部関係者で検討し策定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山小中学校活用検討委員会による施設活用の方向性の検討 ・関係機関<大学、東京映画社等>との連携強化
<p>来場者 (H24年比10%増) 宿泊：6,000人 (H24：5,463人)</p> <p>来場者 (H24年比10%増) 入浴：19,500人 (H24：17,731人)</p>	<p>(H27年度末見込) 宿泊：1,937人 *施設改修のため、H27.8月末で休止予定 (直近の実績) 宿泊：4,978人 (H26年度末)</p> <p>(H27年度末見込) 入浴：6,868人 *施設改修のため、H27.8月末で休止予定 (直近の実績) 入浴：16,704人 (H26年度末)</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>交流人口の拡大や地域のつながりを目的とした住民組織が立ち上がり、集落の存続のための取り組みなどについて話し合う場ができて、休耕田の花畑づくりやイベントなど住民主体の活動が芽生えてきた。 また、村により温泉施設のリニューアル計画も策定され、村内の重要な観光拠点として整備を進めていくこととなっている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の高齢化や人口減少による活動の負担を軽減するための外部人材の導入 ・集落活動への幅広い住民の参加 ・温泉施設の整備を円滑に進める。 ・集落活動を広く知ってもらうための情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉施設の改修リニューアルによる宿泊者数、入浴者数の増加 ・集落活動による地域の魅力アップと移住者の獲得
		—	<p>地区に着任したふるさと応援隊がイベントや誘客の仕組みづくりを企画して、交流人口の拡大に向けた取り組みを行っている。これらイベント等に地域住民が参加し、地域ぐるみで来訪者をもてなすなど、交流人口拡大に向けた取り組みへの参加意識が醸成されつつある。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと応援隊の活動と地域住民主体の活性化策の融合を図り、具体的な動きにしていくこと。 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたって、地域住民の意向を反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東部博イベントを契機とした地区住民主体の取り組みの促進 ・交流人口拡大につながるビジネスの創出

